

第58期 株主通信

2024年4月1日 - 2025年3月31日





資本効率性を踏まえた 成長戦略を推進

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業へのご理解とともに格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第58期（2024年4月1日～2025年3月31日）の営業状況をご報告申し上げ、中期経営計画の進捗と資本効率向上への取り組みをご説明させていただきます。

2025年6月

代表取締役社長 **加納 慎也**



Q

2025年3月期を振り返り、営業状況をご説明願います。

A

企業収益の改善が続き、都市部を中心にビル移転・入居工事が増加する中で、当社事業においてはオフィスのリニューアル需要が活況を呈し、可動間仕切を中心に受注を伸ばした1年でした。特に第4四半期（1-3月）は繁忙を極め、売上高が前年同期比6.3%増、営業利益が同65.0%増と大幅に伸長し、期末受注残高は前期比13.3%増、うち可動間仕切は同30.3%増となりました。

しかし福祉・厚生施設向けなど、オフィス向け以外の用途は伸び悩み、トイレブースの売上も減少したため、通期業績における売上高は前期比2.4%増にとどまり、物流費やショールームの賃借料が増加したことなどから、営業利益はほぼ横ばいとなりました。

営業活動では、各地のショールームを活用した受注アプ

ローチが奏功し、販促物展開とともにブランディング強化面でも効果を上げています。注力製品では、高価格帯のオフィス向け可動間仕切「マイティスマートレール」が販売を順調に伸ばし、業績を牽引しました。新規製品では、高い意匠性を持つスティールパーティション「STEERA」を下期に投入し、高い注目を集めていますが、本格的な業績貢献は2026年3月期以降になる見込みです。また今後は、オフィス向け以外の製品についても積極的に展開する必要性を認識し、意匠性と付加価値を高めたトイレブース「haremo」の開発・投入にも取り組みました。

なお当期は、可動間仕切の生産増強に向けて加賀工場2号棟の建設着工を2025年2月に予定していましたが、スケジュールを見直し、これを同5月に延期しました。



中期経営計画の進捗と新たな目標設定についてお聞かせください。

当社は、2028年3月期を最終年度とする5ヶ年中期経営計画「NEXT VISION 2028」を推進中です。これまでの2年間で、基本方針に掲げる「既存間仕切事業の成長」および「新規製品の創出」は着実に進展しており、受注拡大や製品開発において成果を上げ、当社の価値提供を拡げています。もう一つの基本方針である「生産・物流オペレーションの高度化」は、これを担う加賀工場2号棟の建設に遅れが生じたものの、方向性を定めて着工に至り、2027年5月に操業を開始する予定です。

計画3年目の2026年3月期は、オフィス環境におけるリニューアル需要の継続が見込まれ、受注残高の増加も果たしていることから、増収・増益を想定しています。

なお本計画は、「売上高年平均成長率3~6%（2023年3月期基準）」「売上高営業利益率7~10%」「ROE 5~8%」の達成を目指していましたが、このたび「資本コストや株価を意識した経営の実現」への対応として、これ

らの業績目標を見直し、上方修正しました。

当社に対する株式市場の評価を鑑み、当社の推定資本コストを8%と算出し、その水準を上回る「ROE 8%以上」を目指すものとします。成長性については「売上高年平均成長率4~6%（2023年3月期基準）」、収益性については「売上高営業利益率8~10%」を新たに設定しました。

同時に財務レバレッジの改善を進めるべく、株主還元強化を打ち出し、本計画期間中における配当の水準を従前の「DOE 3.0%を下限とする実施」から「同6%を目安とする実施」へ引き上げました。この還元強化により当社は、自己資本の増加を押さえてROEの向上につなげつつ、株式市場における評価を高めていく考えです。

そして今後は、新設した「戦略検討チーム」が中心となり、経営課題のアップデートを進めながら、資本効率性を踏まえた成長戦略をリードしていくことで、より高い目標を達成してまいります。



株主の皆様へのメッセージをお願いします。

2024年10月1日付で、当社は1:2の株式分割を実施いたしました。そのうえで、今回の期末配当は1株当たり35円とさせていただきます、年間配当額は、中間配当の同30円と合わせて同65円（前期比2.5円増配）となりました。2026年3月期は、上述の株主還元強化方針に基づき、1株当たり年間配当額130円（中間65円・期末65円）を予定しています。これによって、年間配当額は当期比2倍の増配となり、DOEは6.0%となる見込みです。

これからの当社は、株主還元強化により高配当企業

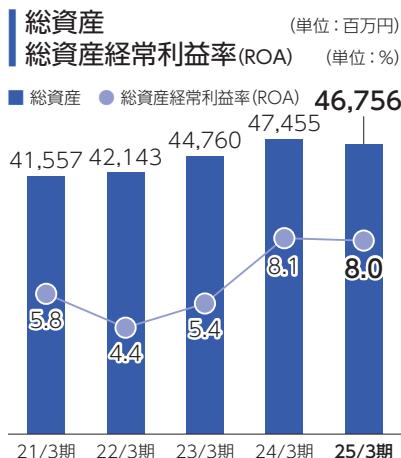
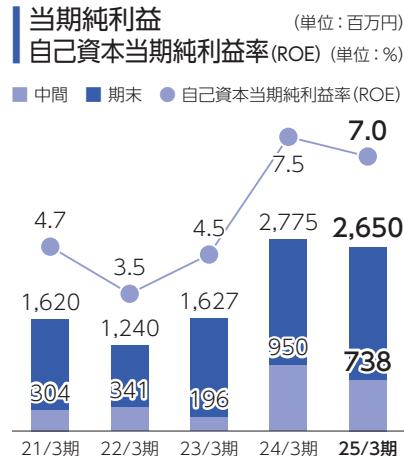
として評価をいただくと考えていますが、それだけではなく、高い成長と収益の拡大を実現できる会社として、株主・投資家の皆様の期待に応えていく所存です。

そして製品づくりにおいては、「サステナブル・プロダクト・スタンダード」と題する方針のもと、再生材・再利用・省資源・再資源化・多様性の5つのテーマによる開発・改良を推進し、事業活動を通じて環境と社会の持続可能性に貢献してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。



業績ハイライト



※2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。過年度の配当金についても遡及修正しております。

決算情報の詳細は、小松ウオール工業のWebサイトでもご紹介しています。

<https://www.komatsuwall.co.jp/ir/library/>





財務諸表要旨

貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 2023年4月1日～ 2024年3月31日	当事業年度 2024年4月1日～ 2025年3月31日
資産の部		
流動資産	32,539	31,322
固定資産	14,915	15,433
有形固定資産	11,767	12,260
無形固定資産	385	415
投資その他の資産	2,763	2,757
資産合計	47,455	46,756
負債の部		
流動負債	6,940	6,373
固定負債	2,447	2,592
負債合計	9,388	8,965
純資産の部		
株主資本	37,970	37,701
資本金	3,099	3,099
資本剰余金	3,035	3,031
利益剰余金	34,361	33,776
自己株式	△ 2,525	△ 2,207
評価・換算差額等	96	88
其他有価証券評価 差額金	96	88
純資産合計	38,067	37,790
負債純資産合計	47,455	46,756

損益計算書

(単位:百万円)

	前事業年度 2023年4月1日～ 2024年3月31日	当事業年度 2024年4月1日～ 2025年3月31日
売上高	43,551	44,616
売上原価	28,804	28,857
売上総利益	14,746	15,759
販売費及び一般管理費	11,105	12,123
営業利益	3,640	3,635
営業外収益	91	120
経常利益	3,732	3,756
特別利益	19	56
特別損失	7	9
税引前当期純利益	3,744	3,802
法人税、住民税及び事業税	1,076	1,150
法人税等調整額	△ 107	1
法人税等合計	968	1,151
当期純利益	2,775	2,650

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前事業年度 2023年4月1日～ 2024年3月31日	当事業年度 2024年4月1日～ 2025年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	4,273	3,327
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,171	△ 469
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,056	△ 2,729
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	2,044	128
現金及び現金同等物の 期首残高	11,476	13,521
現金及び現金同等物の 期末残高	13,521	13,649



品目別概況

可動間仕切



レイアウト変更の際、使用方法に応じて撤去、移設が可能な間仕切であります。

固定間仕切



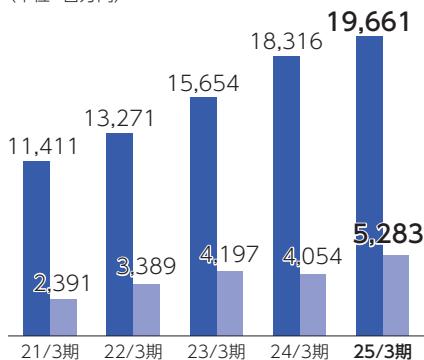
建物付帯工事として溶接により躯体に取付ける間仕切ならびに壁面化粧鋼板パネルの金属工事であります。

トイレブース



ユニット化したトイレ専用の間仕切であります。

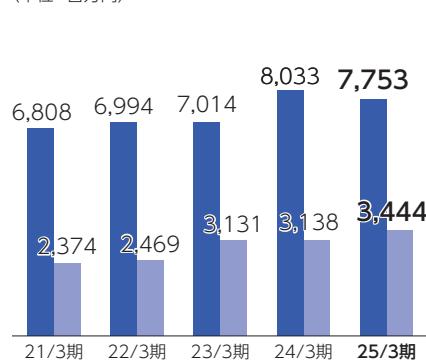
■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)



■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)



■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)



移動間仕切



ホテルの宴会場等の間仕切として、ユーザー自身が移動させて使用する間仕切であります。

■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)

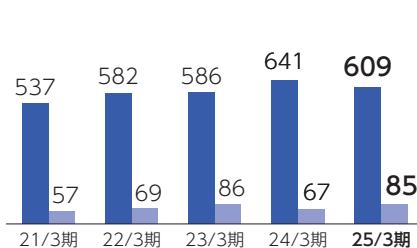


□一間仕切



主に、オフィス用衝立およびローパーティション等のオフィス家具であります。

■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)

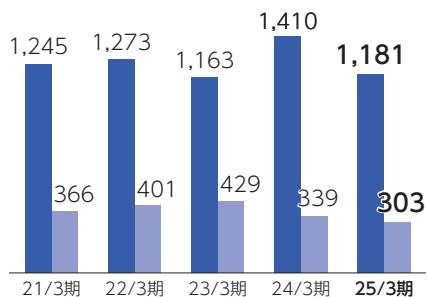


その他



主に、ABW型の働き方に対応した間仕切ならびに既存間仕切の解体・移設組立であります。

■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

小松ウオールは、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、現状の分析と認識の整理を行い、企業価値向上に向けた方針を決定いたしました。

現状認識と課題

資本コスト

CAPMや株式益回りから考慮した当社の資本コストは8%程度と推定

ROE

改善傾向にはあるが、ROEは8%を下回っている

ROE要素分解

売上高当期純利益率および財務レバレッジに改善余地

市場評価

PBR1倍割れの状況が継続しており、資本コストを下回るROEや成長性に対する投資家の厳しい見方を反映していると推定

企業価値向上に向けた取り組み

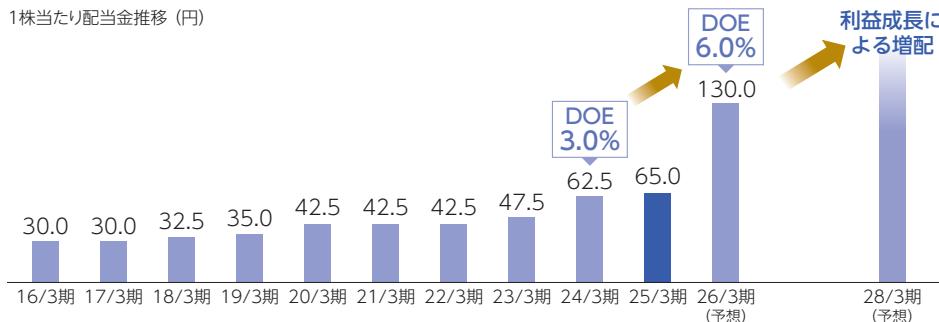
中期経営計画目標の上方修正

	変更前	変更後
ROE	5%~8%	8%以上
売上高成長率	3%~6%	4%~6%
営業利益率	7%~10%	8%~10%

企業価値向上に向けた具体的な取り組み

資本効率性重視	投資委員会の設立、ROIC、IRRによる投資判断の徹底
成長戦略	戦略検討チームの設立、 M&Aを含めた成長戦略 の立案と実行
株主還元強化	現中期経営計画期間中の配当水準を「純資産配当率(DOE) 3.0%を下限とする」から「 6%を目安とする 」に引き上げ

1株当たり配当金推移 (円)



利益成長による増配

株主還元方針の変更は2026年3月期より適用いたします。変更後の方針に基づいた2026年3月期の配当金は、前期比2倍の130円00銭への増配予定となっております。



表面材にOSB (Oriented Strand Board) を使用したトイレブース【サニティ TB-TP】



フィルム貼りのガラスで、見えるけど見えない安心感【マイティ-GFRAME・PLS】

納入事例

「グッドデザイン賞」受賞 日本女子大学 オールジェンダートイレ

(日本女子大学目白キャンパス 百年館低層棟1階)

日本女子大学がトランスジェンダーの学生を受け入れるにあたり、女性用トイレをオールジェンダートイレに改修しました。小松ウオールは、表面材にOSB (Oriented Strand Board) を使用したトイレブース「サニティ TB-TP」と、トイレと廊下の境界部分に「マイティ-GFRAME・PLS」を納入いたしました。

大きな2か所の出入口を設けた、行き止まりのないトイレです。立ち寄るきっかけづくりとプライバシー

への配慮を両立し、誰もが使いやすい、居心地の良いトイレ空間となっております。

設計監理：清水建設株式会社一級建築士事務所 施工：清水建設株式会社
納入製品：サニティ TB-TP、マイティ-GFRAME・PLS

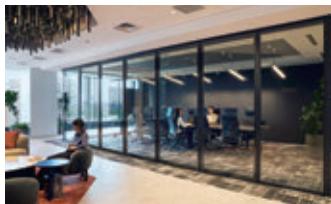
**オールジェンダートイレは、
2024年度グッドデザイン賞を受賞しています。**

受賞対象：日本女子大学 オールジェンダートイレ
受賞企業：学校法人日本女子大学／清水建設株式会社一級建築士事務所
事業主体名：学校法人日本女子大学

新製品紹介

2025年1月発売

驚くような動きと美しさで空間を自在に変える「PIVO」



中心一点吊りのダブルガラススライディングウォール「PIVO（ピボ）」を発売いたしました。軸回転と並行移動をするパネルは、自由な角度に回転可能で、オープン、セミオープン、クローズと様々なレイアウトに対応できます。閉じると優れた遮音性を発揮し、洗練された空間を演出します。

ウェブサイト「PIVO」紹介ページ ▶

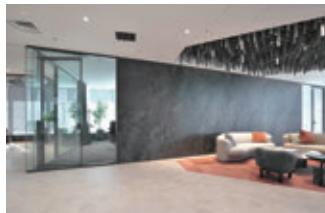
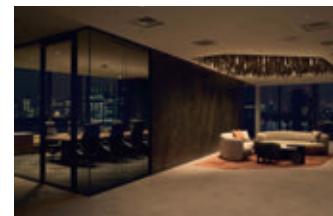
<https://www.komatsuwall.co.jp/special/152.html>



2025年2月発売

新時代のスチールパーティション「STEERA」

大自然にインスパイアされた意匠を持つスチールパーティション「STEERA（スティーラ）」を発売いたしました。最上級の遮音性と、大判タイル、天然木化粧板、ファブリックパネルなどの多様な表面仕上げ材のラインアップで、上質な空間を提供します。また、仕上げ材も含めて全ての部材が解体・移設可能で、持続可能な社会の実現に向け、環境に配慮した製品となっております。



ウェブサイト「STEERA」紹介ページ ▶

<https://www.komatsuwall.co.jp/special/151.html>



2025年1月発売

やさしさと美しさが調和したトイレブース「haremo」



シンプルでありながら、洗練されたデザインで、やわらかく空間にニュアンスを含ませる表面材を使用したトイレブース「haremo（ハレモ）」を発売いたしました。表面材とエッジは同色柄となっており、デザインに一体感をもたらします。環境にやさしいオレフィンシートを採用し、レスキュードア（非常時外開きドア）にも対応しており、自然にも人にも寄り添う、落ち着いた空間をお届けいたします。

ウェブサイト「haremo」紹介ページ ▶

<https://www.komatsuwall.co.jp/special/150.html>



サステナビリティへの取り組みについて

えるぼし認定の取得について

小松ウオールは2024年10月、えるぼしの2つ星（2段階目）の認定*を取得しました。今後も、多様な人材が個々の能力を最大限に発揮できるよう、女性の活躍をさらに推進していきます。

*えるぼし認定とは、女性活躍推進法に基づく行動計画の策定と届出を行った企業のうち、女性の活躍推進に関する取り組み状況が優良な企業について、厚生労働大臣が認定を行う制度です。



人権方針の策定

小松ウオールは、持続可能な社会の実現に貢献していくために、各人の基本的人権を尊重しあい、全てのステークホルダーの人権に配慮した事業活動を推進していきます。この考えにたって、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき人権方針を定めました。今後も、全社一丸となって人権の尊重に取り組んでまいります。



会社概要 / 株主メモ (2025年3月31日現在)

会社概要

商号 小松ウォール工業株式会社
(KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD)

設立 1968年1月22日

資本金 3,099,945,552円

事業目的 1. スチールおよびアルミニウム製品の製造、販売ならびに工事施工
2. 室内装備品の販売および設計施工
3. 前各号に附帯する一切の事業

従業員数 1,399名

(注) 従業員数には、嘱託およびパートタイマー (計39名) は含まれておりません。

取締役一覧 (2025年6月25日現在)

代表取締役社長執行役員 加納 慎也

取締役常務執行役員 山田 新一

取締役常務執行役員 綾 由紀夫

取締役 蜂谷 俊雄

取締役 古谷 まゆみ

取締役常勤監査等委員 比嘉 正人

取締役監査等委員 中田 浩一

取締役監査等委員 松山 純子

(注) 取締役 蜂谷俊雄氏、古谷まゆみ氏、中田浩一氏および松山純子氏は社外取締役であります。

株式の状況

発行可能株式総数 50,000,000株 単元株式数 100株
発行済株式の総数 19,721,980株 株主数 10,454名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
KANO株式会社	3,463,698	19.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,144,300	11.94
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	897,000	5.00
小松ウォール工業従業員持株会	744,580	4.15
有限会社マルヨ	386,000	2.15
原田株式会社	360,000	2.01
加納 裕	322,024	1.79
明治安田生命保険相互会社	309,200	1.72
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	296,329	1.65
INTERACTIVE BROKERS LLC	210,600	1.17

(注) 1. 持株比率は自己株式(1,769,870株)を控除して計算しております。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社および株式会社日本カストディ銀行の持株数は、信託業務に係るものであります。
3. 株式会社日本カストディ銀行が保有する897,000株には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託財産406,600株が含まれております。

所有者別株式数分布

※自己株式は一般国内法人に含んでおります。

一般国内法人 35.13%	個人・その他 37.65%	金融機関 18.58%
	外国人等7.51%	証券会社1.13%

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

上場取引所 東京証券取引所 プライム市場

株主確定の基準日 定時株主総会、期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

定時株主総会 6月

単元株式数 100株

公告方法 電子公告 (<https://www.komatsuwall.co.jp>)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

小松ウォール工業株式会社

石川県小松市工業団地1丁目72番地

www.komatsuwall.co.jp



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

